

国際課活動レポート

◆和歌山県人ペルー移住110周年記念式典・祝賀会（10月10日～18日）

下副知事は、和歌山県人ペルー移住110周年記念式典に出席するため、県議会、県国際交流協会から構成される訪問団団長として中南米を訪問し、和歌山県民がペルーに移住してから110周年であることを記念したペルー和歌山県人会の記念式典および祝賀会に出席しました。和歌山県出身者及びその子弟ら約110名から歓迎を受け、下副知事は本県からのペルー移民のために尽力した初代移住者22名を顕彰するとともに、本県出身者への激励を行いました。



(顕彰の様子)

◆「世界津波の日」2018高校生サミット in 和歌山（10月31日～11月1日）

世界各国の高校生が集まって津波の脅威と対策を共に学ぶサミットを、11月5日の「世界津波の日」制定の由来となった「稲むらの火」の発祥の地である和歌山県で開催しました。一昨年度は高知県、昨年度は沖縄県で開催され、今回で3回目となるこのサミットには、過去最高となる世界48か国の高校生（約400人）が参加しました。

サミットの開会に先立って、海外から来県した高校生は広川町で稲むらの火祭りに参加して濱口梧陵の精神に触れ、県内各地で実施されたスタディツアーで地元高校生とともに防災学習を通じて国際交流を深めました。サミットでは、まずテーマごとにグループに分かれた分科会にて、生徒たちが各学校の取組についてプレゼンテーションを行い、災害から世界中の人々の命を守るため、自分たちに何ができるのかを議論しました。その後の総会では、各グループの代表が議論の結果を発表し、県内高校から選ばれた2人の議長が、サミットの集大成としてまとめられた「稲むらの火継承宣言」を読み上げました。今回参加された高校生の皆さんには、この宣言にあるとおり、サミットで経験し、学習したことをそれぞれの国で実践し、広めていくことにより、世界中の防災意識の向上に貢献していただくことを期待したいと思います。

★「世界津波の日」2018高校生サミット in 和歌山の公式ホームページにて、サミット当日の動画を含む様々な情報がご覧いただけます。

<https://www.tsunami2018wakayama.telwaka.tv/>

